A-7 竹の切り株に発生する蚊の幼虫の種間競争

○ 砂原俊彦・茂木幹義（佐賀医科大・微生物）

Interspecific competition between two species of mosquito larvae inhabiting bamboo stumps

Sunahara, T. and Mogi, M.

竹の切り株は、小容器に発生する蚊の主要な生息地のひとつとなっている。1994年の春と夏に佐賀市周辺の竹林の蚊の発生状況を調査した結果、ヒトスジシマカとキンパラナガハシカの2種が優占することがわかった。また、これら2種の出現頻度には負の関係があることから種間競争の存在が示唆されたので、これを確かめるために室内実験をおこなった。竹の葉を入れたマイクロコズムに、2種の1令幼虫を同時に加えて初期成長を比較すると、他の幼虫がいない場合にはヒトスジシマカのほうが早く成長するが、いずれかの種の4令幼虫の存在下では飢餓耐性の強いキンパラナガハシカのほうがよく生存した。これらの結果から、水たまりの遷移の初期にはヒトスジシマカが優位であるが、餌が不足してくると、キンパラナガハシカが優占し、ヒトスジシマカは侵入できなくなることが推測される。

A-8 東北地方での小容器に発生するヤブカ属の蚊 （2報）

栗原 毅（帝京大医動物）

The distribution of Aedes albopictus in northern Japan

KURIHARA, Takeshi

前回ヒトスジシマカを中心とするヤブカ属分布を調査して、本種が宮城県仙台市（北緯38°16′）と塩釜市で採集され、その以北では採集できなかったことを報告した。1994年9月は山形県と新潟県の日本海沿岸の都市での調査をおこなった。その結果、酒田市（38°54′）で本種が多数発生していることを確認した。新潟県ではすでに大森（1958）、大鶴ら（1960）が本種の分布を報告しているが、今回も村上市と新潟市で多数の発生を確認した。なお、ヤマダシマカは今回いづれの場所においても採集できなかった。